

Microsoft System Center 向け OpenManage Integration バージョン 7.0 インストールガイド

メモ、注意、警告

① **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

△ **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

⚠ **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Copyright © 2009 - 2017 Dell Inc. or its subsidiaries. All rights reserved. Dell, EMC, およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

1 はじめに	5
2 OMIMSSC のコンポーネントについて	6
3 OMIMSSC コンソール拡張のインストール計画	7
SCCM への OMIMSSC のインストール計画	7
SCVMM への OMIMSSC のインストール計画.....	7
4 OMIMSSC のシステム要件	9
アカウント権限.....	9
OMIMSSC の共通システム要件	9
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件.....	11
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の使用許可の検証.....	11
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件	13
ネットワーク要件.....	13
5 OMIMSSC のインストール、設定、および維持	15
OMIMSSC のウェブからのダウンロード.....	15
アプライアンスのセットアップ.....	15
管理ポータル起動と OMIMSSC コンポーネントのダウンロード	17
OMIMSSC 用 IG のインストール	17
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインストール.....	19
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインストール.....	19
コンソールの登録.....	20
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動.....	20
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動	21
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート.....	21
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動.....	21
6 OMIMSSC とコンポーネントの管理	22
アプライアンスの詳細の表示.....	22
OMIMSSC ユーザー管理.....	22
登録済みコンソールの表示または更新.....	22
インストーラおよびアカウントの修復または変更.....	22
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復.....	23
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復.....	23
OMIMSSC IG の修復.....	23
IG アカウントと SCCM または SCVMM アカウントの変更.....	23
OMIMSSC のアンインストール.....	24
OMIMSSC コンソールの登録解除.....	24

OMIMSSC IG のアンインストール.....	25
SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアンインストール.....	25
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアンインストール.....	25
その他のアンインストール手順.....	25
アプライアンス VM の削除.....	26
Configuration Manager 用 DLCI および SCVMM 用 DLCI の旧バージョンからの移行またはアップグレード.....	26
OMIMSSC のアップグレード.....	26
Service Pack のアップデートについて.....	26
IG のアップグレード.....	29
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアップグレード.....	29
7 トラブルシューティング.....	30
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアカウントの削除.....	30
アプライアンスと ADK の互換性の問題	30
アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失.....	30
SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張へのアクセスエラー.....	31
Mozilla Firefox ブラウザを介して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ.....	31
OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗.....	31
アプライアンスに設定されていない IP アドレス.....	31
SCVMM にアクセスするに必要な権限がない.....	31
Active Directory へのサーバー追加中の SCVMM エラー 21119.....	32
登録の失敗	32
8 Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....	33
デルへのお問い合わせ.....	33

はじめに

Microsoft System Center 向け OpenManage Integration (OMIMSSC) は、Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) with Lifecycle Controller (LC) を使用することで、Dell EMC サーバーのライフサイクル全体の管理を可能にする System Center 製品スイートへの統合を提供します。

OMIMSSC は、オペレーティングシステムの導入、ハードウェアのパッチ適用、ファームウェアのアップデート、およびサーバーのメンテナンスを提供します。OMIMSSC を使用すると、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) と統合して、従来のデータセンターで Dell EMC サーバーを管理することも、Microsoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) との統合を利用して、仮想化環境とクラウド環境で Dell EMC サーバーを管理することもできます。

このガイドでは、OMIMSSC と SCCM または SCVMM との統合をインストールするための、ソフトウェアの前提条件とシステム要件に関する情報を説明します。

SCCM および SCVMM の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

OMIMSSC のコンポーネントについて

次のリストは、本書で使用されている OMIMSSC のコンポーネントとその名前の一覧です。

- Microsoft System Center 向け OpenManage Integration アプライアンス仮想マシン。アプライアンスとも呼ばれ、CentOS ベースの仮想マシンとして Hyper-V でホストされ、次のタスクを実行します。
 - Web Services Management (WSMAN) コマンドを使用して、iDRAC 経由で Dell EMC サーバーと対話します。
 - 管理ポータル経由での OMIMSSC アプライアンスの管理を可能にします。
- OMIMSSC 統合ゲートウェイ。統合ゲートウェイ (IG) とも呼ばれる、Windows サーバーにインストールされたウェブサービスのセットで、次のタスクを実行します。
 - SCCM または SCVMM PowerShell コマンドを実行し、SCCM または SCVMM とアプライアンスの間の中間ゲートウェイとして機能します。
 - アプライアンス向けに WinPE をカスタマイズします。
- Microsoft System Center 向け OpenManage Integration コンソール。OMIMSSC コンソールとも呼ばれます。
 - SCCM 用 OMIMSSC コンソールプラグイン。SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張とも呼ばれます。
 - SCVMM 用 OMIMSSC コンソールアドイン。SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張とも呼ばれます。

OMIMSSC コンソール拡張のインストール計画

要件に基づいて、次のトピックに記載されているタスクを実行することにより、SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張または SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のどちらかを選択してインストールできます。

トピック：

- [SCCM への OMIMSSC のインストール計画](#)
- [SCVMM への OMIMSSC のインストール計画](#)

SCCM への OMIMSSC のインストール計画

このタスクについて

OMIMSSC を SCCM にインストールするには、次のタスクを実行します。

手順

- 1 OMIMSSC を SCCM コンソールにインストールするためのシステム要件を確認します。詳細については、「[Software prerequisites and requirements for OMIMSSC \(OMIMSSC のソフトウェアの前提条件と必要条件 \)](#)」を参照してください。
- 2 サポートサイトからファイルをダウンロードします。詳細については、「[Downloading from support site\(サポートサイトからのダウンロード \)](#)」を参照してください。
- 3 アプライアンス VM を作成してセットアップします。詳細については、「[Creating and setting Appliance VM \(アプライアンス VM の作成と設定 \)](#)」を参照してください。
- 4 次の OMIMSSC コンポーネントをダウンロードするには、管理ポータルを起動します。
 - a IG をダウンロードしてインストールします。詳細については、「[Downloading and installing IG \(IG のダウンロードとインストール \)](#)」を参照してください。
 - b SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張をダウンロードしてインストールします。詳細については、「[SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインストール](#)」を参照してください。
- 5 詳細情報を入力して、OMIMSSC に SCCM コンソールを登録します。詳細については、「[Enrolling MSSC console \(MSSC コンソールの登録 \)](#)」を参照してください。
- 6 SCCM コンソールから SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張を起動します。詳細については、「[SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動](#)」を参照してください。

SCVMM への OMIMSSC のインストール計画

このタスクについて

OMIMSSC を SCVMM にインストールするには、次のタスクを実行します。

手順

- 1 OMIMSSC を SCVMM コンソールにインストールするためのシステム要件を確認します。詳細については、「[Software prerequisites and requirements for OMIMSSC \(OMIMSSC のソフトウェアの前提条件と必要条件 \)](#)」を参照してください。
- 2 サポートサイトからファイルをダウンロードします。詳細については、「[Downloading from support site\(サポートサイトからのダウンロード \)](#)」を参照してください。
- 3 アプライアンス VM を作成してセットアップします。詳細については、「[Creating and setting Appliance VM \(アプライアンス VM の作成と設定 \)](#)」を参照してください。
- 4 次の OMIMSSC コンポーネントをダウンロードするには、管理ポータルを起動します。

- a IG をダウンロードしてインストールします。詳細については、「[Downloading and installing IG \(IG のダウンロードとインストール \)](#)」を参照してください。
 - b SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をダウンロードしてインストールします。詳細については、「[Downloading and installing OMIMSSC console extension for SCVMM \(SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のダウンロードとインストール \)](#)」を参照してください。
- 5 詳細情報を入力して、OMIMSSC に SCCM コンソールを登録します。詳細については、「[Enrolling MSSC console \(MSSC コンソールの登録 \)](#)」を参照してください。
 - 6 SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をインポートします。詳細については、「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート](#)」を参照してください。
 - 7 SCVMM で OMIMSSC コンソール拡張を起動します。詳細については、「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動](#)」を参照してください。

OMIMSSC のシステム要件

トピック：

- アカウント権限
- OMIMSSC の共通システム要件
- SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件
- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件
- ネットワーク要件

アカウント権限

OMIMSSC で使用されるすべてのアカウントの要件です。

OMIMSSC コンソール拡張の統合ゲートウェイアカウント（IG から MSSC コンソールへの操作の実行に使用される IG サービスアカウント）では、ユーザーが以下のメンバーである必要があります。

- ドメインユーザーグループ
- SCCM または SCVMM の管理者権限を持つグループ
- ローカル管理者グループ

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張では、ユーザーが SCCM の管理者権限を持ち、以下のメンバーである必要があります。

- ドメインユーザーグループ
- ローカル管理者グループ

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張では、ユーザーが以下のメンバーである必要があります。

- ドメインユーザーグループ
- ローカル管理者グループ
- SCVMM サーバーの管理者のユーザーは、SCVMM のサービスアカウントにしないでください。

OMIMSSC の共通システム要件

OMIMSSC をインストールする前に、記載された 3 つの OMIMSSC コンポーネントに基づき、次のソフトウェア前提条件のインストールを完了していることを確認します。

- OMIMSSC アプライアンス：
 - Windows Server をインストールして、Hyper-V 役割を有効にします。
 - OMIMSSC でマルチコンソールの登録がサポートされるようになったため、1 台のアプライアンスで任意の数の SCCM または SCVMM コンソールを登録できるようになりました。登録を計画しているコンソールの数に基づくハードウェア要件は次のとおりです。

表 2. ハードウェア要件

コンポーネント	SCCM または SCVMM コンソールあたり	SCCM または SCVMM の数：N
RAM	8 GB	8 GB x N

プロセッサ数	4	4 x N
--------	---	-------

- IG :
 - 次のいずれかのバージョンの Windows Server をインストールします。
 - Windows Server 2012 R2
 - Windows Server 2012
 - Windows Server 2016
 - Microsoft .NET バージョン 3.5
 - Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK)
 - PowerShell

管理システムとは、OMIMSSC とそのコンポーネントがインストールされているシステムです。次のリストは、サポートされる ADK、DTK、および WinPE のバージョンの一覧です。

表 3. 管理システムのシステム要件

IG システムの OS バージョン	管理コンソールの SCCM または SCVMM のバージョン	ADK のバージョン	PowerShell	Microsoft .NET のバージョン
Windows Server 2012	Microsoft System Center Operations Manager 2012 SP1 Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2012 SP1	8.0	3.0	3.5
Windows Server 2012 R2	Microsoft System Center Configuration Manager 2012 SP2 Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2 Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2 SP1 Microsoft System Center Configuration Manager 2012 SP2 Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2012 R2	8.1	4.0	4.5
Windows Server 2016	Microsoft System Center Configuration Manager バージョン 1610 Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2016	10.0	4.0	

- 管理ポータル :
 - 次のサポートされるブラウザのいずれかをインストールします。
 - Internet Explorer 10 以降

- Mozilla Firefox 30 以降
- Google Chrome 23 以降
- Microsoft Edge

特定の OMIMSSC システムの要件に従うには、使用しているコンソールに基づき、次のリンク先で説明されている要件を参照してください。

- [SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件](#)
- [SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件](#)

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張にアクセスするには、次の手順を実行します。

- SCCM 管理コンソールをインストールします。

メモ: インストーラは、SCCM 管理コンソールのインストールの有無のみをチェックし、アプライアンスがデータベースに検出レコードを書き込むサイトサーバーに、同じバージョンの SCCM がインストールされているかどうかはチェックしません。正しいバージョンの管理コンソールがインストールされていることを確認してください。

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の使用許可の検証

インストール後のチェック：

このタスクについて

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張では、ユーザーに SCCM の管理者権限が必要です。アカウントの権限を確認するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 OMIMSSC がインストールされているシステムで、<Configuration Manager Admin Console Install Dir>\XmlStorage\Extensions\DLCPlugin フォルダへの **書き込み** 許可を付与します。
次に、PowerShell を使用して **書き込み** 許可を付与します。詳細については、「[ユーザーへの読み取りおよび実行の許可の付与](#)」を参照してください。
- 2 Windows Management Instrumentation (WMI) へのユーザーアクセスを設定します。詳細については、「[WMI へのユーザーアクセスの設定](#)」を参照してください。
- 3 DDR 受信箱にファイルを書き込むための共有およびフォルダの許可を付与します。詳細については、「[共有およびフォルダ許可の付与](#)」を参照してください。

ユーザーへの読み取りおよび実行の許可の付与

管理者以外のユーザーは、OMIMSSC コンポーネントをインストールする前に、サイトサーバーおよび SMS プロバイダサーバーで次の前提条件を満たす必要があります。

- 1 PowerShell で、Enable-PSRemoting コマンドを実行します。
- 2 確認メッセージで Y を入力します。
- 3 PowerShell で、Set-ExecutionPolicy RemoteSigned コマンドを実行します。
- 4 確認メッセージで Y を入力します。

WMI へのユーザーアクセスの設定

このタスクについて

WMI へユーザーがリモートでアクセスできるように設定するには、次の手順を実行します。

① | **メモ:** システムのファイアウォールが WMI 接続をブロックしないことを確認します。

手順

- 1 dcomcnfg.exe を使って Distributed Component Object Model (DCOM) にアクセスするには、統合ゲートウェイにユーザー許可を付与します。詳細については、「[DCOM 用のユーザー許可の付与](#)」を参照してください。
- 2 dcomcnfg.exe を使って DCOM Config Windows Management and Instrumentation (WMI) コンポーネントにアクセスするには、Dell Provisioning Server にユーザー許可を付与します。詳細については、「[DCOM Config WMI 用のユーザー許可の付与](#)」を参照してください。
- 3 名前空間セキュリティを設定し、アクセス許可を付与します。詳細については、「[名前空間セキュリティの設定とアクセス許可の付与](#)」を参照してください。
- 4 「[検出に使用するアカウントの設定](#)」に戻ります。

DCOM 用のユーザー許可の付与

このタスクについて

DCOM 用のユーザー許可を付与するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 dcomcnfg.exe を起動します。
- 2 **Component Services (コンポーネントサービス)** コンソールの左ペインで、**Computers (コンピュータ)** を展開し、**Integration Gateway (統合ゲートウェイ)** を右クリックして **Properties (プロパティ)** を選択します。
- 3 **COM Security (COM セキュリティ)** で次を行います。
 - **Access Permissions (アクセス許可)** から **Edit Limits (制限の編集)** をクリックし、**Remote Access (リモートアクセス)** を選択します。
 - **Launch and Activation Permission (起動とアクティブ化許可)** で **Edit Limits (制限の編集)** をクリックし、**Local Launch (ローカル起動)**、**Remote Launch (リモート起動)**、および **Remote Activation (リモートアクティブ化)** を選択します。
- 4 「[WMI へのユーザーアクセスの設定](#)」の手順 2 に進みます。

DCOM Config WMI 用のユーザー許可の付与

このタスクについて

DCOM Config WMI 用のユーザー許可を付与するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 dcomcnfg.exe を起動します。
- 2 **マイコンピュータ > DCOM Config** を展開します。
- 3 **Windows Management and Integration** を右クリックして、**Properties (プロパティ)** を選択します。
- 4 **Security (セキュリティ)** タブの **Launch and Activation Permission (起動とアクティブ化許可)** から **Edit (編集)** をクリックし、**Remote Launch and Remote Activation permissions (リモート起動とリモートアクティブ化許可)** を選択します。
- 5 「[WMI へのユーザーアクセスの設定](#)」の手順 3 に進みます。

名前空間セキュリティの設定とアクセス許可の付与

このタスクについて

名前空間セキュリティを設定し、アクセス許可を付与するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 wmicgmt.msc を起動します。
- 2 **WMI Control (WMI コントロール)** ペインで、**WMI Control (WMI コントロール)** を右クリックし、**Properties (プロパティ)** を選択してから **Security (セキュリティ)** を選択します。
- 3 ROOT\SMS Namespace に移動します。
- 4 **Execute Methods (メソッドの実行)**、**Provide Write (書き込みの提供)**、**Enable Account (アカウントの有効化)**、および **Remote Enable (リモート有効化)** の許可を選択します。

- 5 Root\cimv2\DLCI に移動します。
- 6 **Execute Methods** (メソッドの実行)、**Provide Write** (書き込みの提供)、**Enable Account** (アカウントの有効化)、および **Remote Enable** (リモート有効化) の許可を選択します。
- 7 「**検出に使用するアカウントの設定**」の手順 4 に移動します。

または、Configuration Manager ユーザーを **SMS_Admin** グループのメンバーにして、このグループの既存の許可に **Remote Enable**(リモート有効化) を追加することもできます。

共有およびフォルダ許可の付与

このタスクについて

DDR 受信箱にファイルを書き込むための共有およびフォルダ許可を付与するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 Configuration Manager コンソールの **Administration** (管理) で、**SMS_<サイトコード>** 共有に書き込むためのユーザー許可を付与します。
- 2 **File Explorer** (ファイルエクスプローラ) を使用して共有場所 **SMS_<サイトコード>** 共有に移動し、**ddm.box** フォルダに移動します。次のフォルダに対する完全制御許可をドメインユーザーに付与します。
 - **SMS_<サイトコード>**
 - 受信トレイ
 - **ddm.box**

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のシステム要件

- SCVMM 上の IG の場合 :
 - SC2012 VMM R2 UR12 コンソール、SC2012 VMM SP1 UR11 コンソール、または SC2016 VMM UR2.1 以降がインストールされている。
 - フェールオーバークラスタリング機能が有効になっている。
 - SC2012 VMM R2 コンソール固有のシステム要件 :
 - SC2012 VMM SP1 から SC2012 VMM R2 にアップグレードしている場合は、Windows PowerShell 4.0 へのアップグレードが必要です。
 - SC2012 VMM SP1 コンソール固有のシステム要件 :

① **メモ:** SC2012 VMM SP1 にアップデートする場合は、次のことを念頭に置いてください。SC2012 VMM UR5 以降にアドインをインポートする時に、コンソールがクラッシュする場合があります。この問題に関する情報および解決については、サポート技術情報の URL : [Support.microsoft.com/kb/2785682](http://support.microsoft.com/kb/2785682) から、問題 5 を参照してください。インストールされているアップデートのロールアップのバージョンにかかわらず、このアップデートを実行します。

ネットワーク要件

アプライアンスで使用されるポート :

次のリストは、さまざまな OMIMSSC コンポーネントで使用されるポートの一覧です。したがって、ファイアウォールの例外リストにこれらのポートを含めてください。

表 4. ポート情報

使用状況	プロトコル	ポート番号	設定可能
iDRAC 通信	WSMan	443	無
FTP コマンドクライアント	FTP	21	無

使用状況	プロトコル	ポート番号	設定可能
DNS クライアント	DNS	53	無
Dell オンラインデータアクセス	HTTP	80	無
管理コンソール	HTTP	80	無
HTTPS サーバー	HTTPS	443	無
PostgreSQL	Postgres	5432	無
統合ゲートウェイ	HTTPS	8455	はい。統合ゲートウェイのインストール中に設定可能
自動検出	HTTPS	4433	無
iDRAC — これらのポートは、iDRAC が統合ゲートウェイによって作成された CIFS 共有にアクセスできるように有効にされています。	HTTPS	135 から 139、および 445	無

OMIMSSC のインストール、設定、および維持

トピック：

- OMIMSSC のウェブからのダウンロード
- アプライアンスのセットアップ
- 管理ポータル起動と OMIMSSC コンポーネントのダウンロード
- コンソールの登録
- SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動
- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動

OMIMSSC のウェブからのダウンロード

このタスクについて

OMIMSSC をダウンロードするには、次の手順を実行します。

手順

- 1 Dell Digital ストアからアプライアンスファイルをダウンロードします。
ライセンスキーをダウンロードできない場合は、www.dell.com/support/softwarecontacts に掲載されている、地域および製品ごとのデルサポートの電話番号までお問い合わせください。
- 2 VHD ファイルを解凍して、「アプライアンスのセットアップ」を行います。

アプライアンスのセットアップ

前提条件

アプライアンスをセットアップする Hyper-V について、次の要件を満たしていることを確認してください。

- 仮想スイッチが設定済みで使用可能である。
- Microsoft System Center (MSSC) がセットアップされているシステムのユーザー資格情報。
- SCCM または SCVMM の FQDN。
- IG の FQDN およびユーザー資格情報。
- 設定ファイルを保管する共有ネットワークの場所。
- 登録を計画している MSSC の数に基づいて、アプライアンス VM のメモリが割り当てられていること。詳細に関しては、「[共通要件](#)」を参照してください。

このタスクについて

アプライアンスをセットアップするには、次の手順を実行します。

手順

- 1 次の手順を実行して、アプライアンス VM を展開します。
 - a **Windows Server** の **Hyper-V マネージャー** で、**操作** メニューから **新規** を選択して、**Virtual Machine Manager** をクリックします。
New Virtual Machine Wizard (仮想マシンの新規作成ウィザード) が表示されます。
 - b **開始する前に** で **次へ** をクリックします。
 - c **名前と場所の指定** では、仮想マシンの名前を入力します。

別の場所に VM マシンを格納する場合は、**仮想マシンを別の場所に格納する** を選択し、**参照** をクリックして、新しい場所をスキャンします。

- d **世代の指定** で、**第 1 世代** を選択してから、**次へ** をクリックします。
 - e **メモリの割り当て** で、前提条件に記載されているメモリ容量を割り当てます。
 - f **ネットワークの構成** の **接続** で、使用するネットワークを選択し、**次へ** をクリックします。
 - g **仮想ハードディスクの接続** で **既存のバーチャルハードディスクを使用する** を選択し、**OMIMSSC—v7** VHD ファイルがある場所をスキャンして、そのファイルを選択します。
 - h **概要** で指定した詳細を確認し、**完了** をクリックします。
 - i デフォルトではプロセッサの数が 1 に設定されているので、**仮想プロセッサの数** の値を 2 に設定します。
プロセッサ数を設定するには次のようにします。
 - 1 アプライアンスを右クリックして、**設定** を選択します。
 - 2 **設定** で、**プロセッサ** を選択し、**仮想プロセッサの数** を 2 に設定します。
- 2 アプライアンス VM が適切に設定されていることを確認するには、アプライアンス VM を選択して右クリックし、**設定** をクリックして、次のタスクを実行します。
- a アプライアンスのメモリ割り当てが、**「共通要件」**に記載された要件に従っていることを確認します。従っていない場合は、**スタートアップ RAM** でメモリ容量を入力して、**適用** をクリックします。
 - b プロセッサ数が、**「共通要件」**に記載された要件に従っていることを確認します。従っていない場合は、**プロセッサ** で、**仮想プロセッサの数** にプロセッサ数を入力します。
 - c IDE コントローラの **バーチャルハードディスク** フィールドで、**IDE コントローラ 0 > ハードドライブ** の **バーチャルハードディスク** が **OMIMSSC—v7** ファイルを参照していることを確認します。参照していない場合は、**参照** をクリックして、VHD ファイルが解凍されている場所に移動し、**OMIMSSC—v7** ファイルを選択して、**適用** をクリックします。
 - d **ネットワークアダプタ > 仮想スイッチ** が物理 NIC カードに接続されていることを確認します。接続されていない場合は、NIC カードを設定し、**仮想スイッチ** ドロップダウンメニューから適切な NIC カードを選択して、**適用** をクリックします。
- 3 **Hyper-V マネージャー** メニューで、アプライアンス VM を右クリックして、次の手順を実行します。
- a **接続** をクリックし、**起動** をクリックします。

選択したアプライアンスの仮想ハードディスクで新しく作成した仮想マシンが、カーネルパニックの例外で起動に失敗した場合、その仮想マシンの設定を編集し、この仮想マシンの動的メモリオプションを有効にします。

仮想マシン用の動的メモリオプションを有効にするには、次のタスクを実行します。

- a アプライアンス VM を右クリックし、**設定** をクリックして **メモリ** をクリックします。
- b **動的メモリ** の下で、**動的メモリを有効にする** チェックボックスを有効にして、詳細を提供します。

- 4 アプライアンスが起動したら、次のタスクを実行します

① **メモ:** すべてのサービスが開始されるように、Admin としてログインする前に 5 分間待機することを推奨します。

- a **localhost login** に admin と入力します。
- b **Enter new Admin password** にパスワードを入力します。
- c **Please confirm new Admin password** にパスワードを再入力し、**Enter** を押して続行します。
- d **Appliance (アプライアンス)** で、**Configure Network (ネットワークの設定)** を選択して **Enter** を押し、次のサブステップを実行します。
 - 1 **Select Action (アクションの選択)** で **DNS configuration (DNS 設定)** を選択し、**Enter** を押します。
 - 2 **DNS configuration (DNS 設定)** の **Hostname (ホスト名)** に FQDN を入力し、**OK** を押します。
たとえば、Hostname.domain.com と入力します。

① **メモ:** Device configuration (デバイス設定) オプションを選択することで、アプライアンスの IP アドレスを変更できます。この手順を終えた後は、アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名を変更できません。

- 3 **アクションの選択** で **保存して終了** を押します。
- e (オプション) 複数の SCCM および SCVMM の使用を計画している場合は、**Configure Enrollment Params (登録パラメータの設定)** オプションに詳細を入力して、登録を計画しているコンソール数を設定します。
- f アプライアンスから、管理ポータル URL をメモします。

管理ポータル起動と OMIMSSC コンポーネントのダウンロード

- 1 ブラウザから、管理ポータルを起動します。
- 2 アプライアンスへのログイン時に使用したものと同一資格情報を使用して、管理ポータルにログインします。
フォーマット : `https://<IP アドレス>`
- 3 **ローカルのイントラネットサイト** に管理ポータルの URL を追加します。
- 4 IG と、SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張または SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をダウンロードします。

OMIMSSC 用 IG のインストール

SCCM 用 IG または SCVMM コンソール用 IG をインストールするには、次の手順を実行します。

前提条件

- SCCM または SCVMM 管理コンソールのどちらかが、すでに管理サーバーにインストールされていることを確認します。
- 組織の PowerShell 実行ポリシーのガイドラインを検証してから、ローカルマシンに有効な PowerShell 実行ポリシーが **RemoteSigned** として設定され、統合ゲートウェイサービスアカウントが **Unrestricted** として設定されていることを確認します。ポリシー設定の詳細については、次の MSDN の記事を参照してください。
 - PowerShell 実行ポリシー : [Technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748](https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748)
 - PowerShell グループポリシー : [Technet.microsoft.com/library/jj149004](https://technet.microsoft.com/library/jj149004)

手順

- 1 管理ポータルで、**Download Installer (インストーラのダウンロード)** をクリックして、既知の場所にインストーラを保存します。
- 2 次の手順を実行して、設定済みの IG アカウントを使用して IG をインストールします。

① メモ:

- 1 つの IG が 1 つのコンソールに関連付けられていることを確認します。
- IG アカウントを使用して、IG をインストールする予定のシステムにログインします。

- a **OMIMSSC Integration Gateway (OMIMSSC 統合ゲートウェイ)** インストーラを実行します。
- b **OMIMSSC Integration Gateway Installer Welcome (統合ゲートウェイインストーラのごようこそ)** ページで、**Next (次へ)** をクリックします。
- c **License Agreement (ライセンス契約)** で、**I accept the terms in the license agreement (ライセンス契約の条件に同意します)** を選択して **Next (次へ)** をクリックします。
- d **License: Open-Source Software (ライセンス : オープンソースソフトウェア)** で、オープンソース関連の情報を参照し、**Next (次へ)** をクリックします。
- e **Prerequisites Status (前提条件のステータス)** で次のタスクを実行して、**Next (次へ)** をクリックします。
 - 1 最新の前提条件のステータスを表示するには、**Scan for Prerequisite (前提条件のスキャン)** をクリックし、ステータスを確認します。
 - 2 前提条件をインストールするには、**Install Prerequisite (前提条件のインストール)** をクリックします。

Install Prerequisite (前提条件のインストール) をクリックすると、IG によって次の前提条件が自動インストールされます。

- Microsoft .NET 4.5 下の HTTP のアクティブ化
 - IIS 7.5 下の IIS における Windows 認証
 - IIS 7.5 下の IIS における URL 認証
 - IIS 6 WMI 互換性下の IIS 6 メタベース互換性、および IIS 6 スクリプトツール
 - フェールオーバークラスタリング
- f **Integration Gateway Configuration (統合ゲートウェイの設定)** で、IG サービスアカウントユーザーの詳細を入力し、アカウントの前提条件が満たされていることを確認します。

アプライアンスと IG 間の通信のためのポート番号を設定します。有効になっているデフォルトのポート番号は 8455 です。ただし、要件に基づいて異なるポート番号を設定できます。ポート番号の詳細については、「[OMIMSSC の共通システム要件](#)」を参照してください。

IG 共有フォルダの場所を変更するには、**Select Share Folder (共有フォルダの選択)** をクリックし、新しい場所をスキャンして、**Next (次へ)** をクリックします。

メモ: 作成された共有フォルダに最低 10 GB のディスク空き容量があることを確認します。

デフォルトのインストールフォルダ、**Integration Gateway (統合ゲートウェイ)** が選択されています。インストールフォルダの場所を変更するには、**Change (変更)** をクリックして、新しい場所をスキャンします。場所を変更するには、Change (変更) をクリックして新しい場所をスキャンし、**Next (次へ)** をクリックします。

g **Install the Program (プログラムインストールの準備完了)** で、**Next (次へ)** をクリックします。

次の共有ディレクトリは IG のインストール中に作成されますが、IG 資格情報を使用して、アクセス可能であることを確認します。

- 保護ポールド
- DTK
- ISO
- LCDRIVER
- OMSA
- WIM
- UPDATE

h IG のインストールが完了したら、**Finish (終了)** をクリックします。

次の手順

IG のインストールを検証します。詳細については、「[OMIMSSC 上での IG のインストールの検証](#)」を参照してください。

OMIMSSC 上での IG のインストールの検証

IG のインストールを検証するには、次の手順を実行します。

1 次のメソッドとホスト名を使用して、アプライアンス、SCCM または SCVMM、および IG 間の接続を確認します。

- 読み取り専用ユーザーとしてアプライアンスにログインします。IG サーバー、および SCCM または SCVMM サーバーに対して、アプライアンスから ping を実行します。
 - 読み取り専用ユーザーとしてアプライアンスにログインするには、**readonly** としてのユーザー名とアプライアンス管理者パスワードを入力します。
- IG サーバーにログインし、アプライアンス、および SCCM または SCVMM サーバーに対して ping を実行します。
- SCCM または SCVMM サーバーにログインし、アプライアンスおよび IG サーバーに対して ping を実行します。

ping の応答がない場合は、次を検証します。

- ファイアウォールが通信をブロックしていない。
- DNS サーバーの IP がアプライアンスの **DNS configuration (DNS 設定)** で設定されている。
- アプライアンスが DNS サーバーに存在する。

2 インターネットインフォメーションサービス (IIS) が動作していることを確認してから、ブラウザで URL **https://<IG サーバー>:IG ポート番号 (デフォルトは 8455)** を開き、IIS サイトが到達可能かどうかをチェックします。

IG の資格情報を使用してブラウザで IG サービスを開くことができない場合は、次のことを確認します。

- ファイアウォールは、IG サーバーと IG ポート番号をブロックしていません。
- ウイルス対策などのセキュリティのツールが IG ポートまたは IIS サービスをブロックしていません。

3 IG のインストール中に **\\IGServerHostName** パスの共有フォルダにアクセスできるかどうか確認します。

共有フォルダ内のファイルにアクセスできない場合は、次のことをチェックします。

- IG サーバーのサーバーメッセージブロック (SMB) の設定。

- IG サーバーの IP アドレスが DNS サーバ内に入力されています。
- 4 IG の資格情報を使用して SCCM または SCVMM コンソールにアクセスして、IG ユーザーが SCCM または SCVMM の管理者グループの一部であることを確認します。管理者が SCCM または SCVMM サービスウィンドウのタイトルバーに表示されている場合は、IG ユーザーに管理者権限が与えられています。
 - 5 (初回のユーザーには適用されません) アプライアンスのセットアップを開始する前に、デルのアプリケーションプロファイルが削除されていることを確認します。詳細については、「[その他のアンインストール手順](#)」から「OMIMSSC アプリケーションプロファイルの削除」の項を参照してください。
 - 6 すべての管理システムのエントリが DNS にあることを確認します。
 - 7 IG サービスユーザーアカウントの **Execution policy (実行ポリシー)** が **Unrestricted (制限なし)** に設定されていることを確認します。

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインストール

前提条件

- SCCM 管理コンソールで使用する前に、OMIMSSC を SCCM サイトサーバーにインストールしてください。
- SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインストール、アップグレード、またはアンインストールを行う前に、コンフィグレーションマネージャを閉じることをお勧めします。

手順

- 1 OMIMSSC_SCCM_Console_Extension.exe をダブルクリックします。
Welcome (よこそ) 画面が表示されます。
- 2 **Next (次へ)** をクリックします。
ライセンス契約が表示されます。
- 3 ライセンス契約に同意し、**Next (次へ)** をクリックします。
- 4 **Next (次へ)** をクリックします。
Ready to Install the Program (プログラムのインストール準備完了) 画面が表示されます。
- 5 **Install (インストール)** をクリックします。
プログレバーが表示されます。インストール後、完了メッセージが表示されます。
- 6 **Next (次へ)** をクリックします。
- 7 **Installation Completed Successfully (インストールが正しく完了しました)** で、**Finish (終了)** をクリックします。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインストール

前提条件

- SCVMM コンソールがインストールされているシステムに OMIMSSC コンソールをインストールします。OMIMSSC コンソールをインストールすると、OMIMSSC コンソールを SCVMM コンソールにインポートできます。
- SC2012 VMM R2、SC2012 VMM SP1、または SC2016 VMM コンソールがインストールされていることを確認します。

手順

- 1 **Admin Portal (管理ポータル)** で、**Downloads (ダウンロード)** をクリックします。
- 2 **OMIMSSC SCVMM console extension (OMIMSSC SCVMM コンソール拡張)** から、**Download Installer (インストーラのダウンロード)** をクリックして、任意の場所にファイルを保存します。
- 3 **OMIMSSC_SCVMM_Console_Extension.exe** インストーラを実行します。

- ① **メモ:** iDRAC ファームウェアバージョン 2.40.40.40 以降を使用している場合は、トランスポート層セキュリティ (TLS) バージョン 1.1 以降がデフォルトで有効です。コンソール拡張をインストールする前に、サポート技術情報 Support.microsoft.com/en-us/kb/3140245 の記載に従って TLS 1.1 以降を有効にします。お使いのウェブブラウザに基づき、SCVMM サーバーおよび SCVMM コンソールで TLS 1.1 以降のサポートを有効にして、OMIMSSC が予想どおり動作することを確認してください。iDRAC の詳細については、Dell.com/idracmanuals を参照してください。

- 4 **OMIMSSC SCVMM Console Extension (OMIMSSC SCVMM コンソール拡張)** ようこそページで **Next (次へ)** をクリックします。
- 5 **License Agreement (ライセンス契約)** ページで、**I accept the terms in the license agreement (ライセンス契約の条件に同意します)** を選択してから、**Next (次へ)** をクリックします。
- 6 **Destination Folder (宛先フォルダ)** ページでは、インストールフォルダがデフォルトで選択されています。場所を変更するには、**Change (変更)** をクリックして新しい場所をスキャンし、**Next (次へ)** をクリックします。
- 7 **Ready to Install the Program (プログラムインストールの準備完了)** ウィンドウで、**Install (インストール)** をクリックします。
- 8 **InstallShield Wizard Completed (InstallShield ウィザードの完了)** ページで、**Finish (終了)** をクリックして、SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインストールを完了します。
- 9 SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張を SCVMM コンソールにインポートします。

コンソールの登録

前提条件

次の前提条件が満たされていることを確認します。

- IG がすでにインストールされている。
- SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張または SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張がインストールされている。
- SCCM 管理コンソール上で OMIMSSC コンソール拡張を使用するため、SCCM サイトサーバーが登録されている。

このタスクについて

SCCM または SCVMM コンソールを OMIMSSC に登録するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 ブラウザを開き、アプライアンスの URL を入力します。
管理ポータルログインページが表示されます。
- 2 **Settings (設定)** をクリックし、**Console Enrollment (コンソールの登録)** をクリックしてから **Enroll (登録)** をクリックします。
Enroll a Console (コンソールの登録) ページが表示されます。
- 3 SCCM または SCVMM コンソールのどちらかおよび IG の FQDN、資格情報、および IG のポート番号を入力します。
デフォルトの IG ポート番号は 8455 です。

① **メモ:** 入力した IG の詳細が他の SCCM または SCVMM コンソールに関連付けられていないことを確認します。

- 4 (オプション) **Create New (新規作成)** をクリックして、IG および SCCM または SCVMM コンソールにアクセスするための Windows タイプの資格情報プロファイルを作成します。
資格情報プロファイルの作成の詳細については、『*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration User's Guide (Microsoft System Center 向け OpenManage Integration ユーザーズガイド)*』を参照してください。
- 5 次のコンポーネント間の接続を確認するには、**Test Connection (テスト接続)** をクリックします。
 - アプライアンスと IG
 - IG と SCCM または SCVMM

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動

前提条件

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張へのログインに使用するものと同じ資格情報を使用して、Windows OS にログインします。

手順

SCCM コンソールで、**Assets and Compliance (アセットとコンプライアンス)**、**Overview (概要)** の順にクリックして、**OMIMSSC console extension for SCCM (SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張)** をクリックします。

- ① **メモ:** リモートデスクトッププロトコル (RDP) を使用して SCCM コンソールに接続している場合は、RDP を閉じると OMIMSSC セッションがログアウトされる場合があります。したがって、RDP セッションをもう一度開いてから再度ログインしてください。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張を起動するには、次の手順を実行します。

- 1 コンソール拡張を SCVMM にインポートします。詳細については、「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート](#)」を参照してください。
- 2 コンソール拡張を SCVMM に追加します。詳細については、「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動](#)」を参照してください。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 管理者権限または委任管理のどちらかを使用して、SCVMM コンソールを起動します。
- 2 **設定** をクリックし、**コンソールアドインのインポート** をクリックします。
コンソールアドインのインポートウィザード が表示されます。
- 3 **参照** をクリックして、コンソール拡張の zip ファイルを選択し、**次へ** をクリックして **完了** をクリックします。
アドインが有効であることを確認します。
- 4 左ペインで **ファブリック** をクリックして、リボンの **DELL EMC OMIMSSC** をクリックします。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の起動

- 1 SCVMM コンソールで **Fabric (ファブリック)** を選択してから、**All Hosts (すべてのホスト)** サーバグループを選択します。
① **メモ:** OMIMSSC を起動するために、アクセス許可のある任意のホストグループを選択できます。
- 2 **Home (ホーム)** リボンで **OMIMSSC** を選択します。

OMIMSSC とコンポーネントの管理

トピック：

- [アプライアンスの詳細の表示](#)
- [OMIMSSC ユーザー管理](#)
- [登録済みコンソールの表示または更新](#)
- [インストーラおよびアカウントの修復または変更](#)
- [OMIMSSC のアンインストール](#)
- [Configuration Manager 用 DLCI および SCVMM 用 DLCI の旧バージョンからの移行またはアップグレード](#)
- [OMIMSSC のアップグレード](#)

アプライアンスの詳細の表示

- 1 ブラウザから、管理ポータルを起動します。
- 2 アプライアンスへのログイン時に使用したものと同一資格情報を使用して、管理ポータルにログインし、**Appliance Details (アプライアンスの詳細)** をクリックします。アプライアンスの IP アドレスとホスト名が表示されます。

OMIMSSC ユーザー管理

- 1 ブラウザから、管理ポータルを起動します。
- 2 アプライアンスへのログイン時に使用したものと同一資格情報を使用して、管理ポータルにログインし、**OMIMSSC User Management (OMIMSSC ユーザー管理)** をクリックします。SCCM または SCVMM にログインしているユーザーの詳細が表示されます。

登録済みコンソールの表示または更新

このタスクについて

OMIMSSC で登録されているすべての MSSC コンソールを表示するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 管理ポータルで **Settings (設定)** をクリックして、**Console Enrolment (コンソールの登録)** をクリックします。
登録されているすべてのコンソールが表示されます。
- 2 登録されているコンソールの最新のリストを表示するには、**Refresh (更新)** をクリックします。

インストーラおよびアカウントの修復または変更

インストーラファイルのいずれかを修復するには、以下のトピックを参照してください。

- [SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復](#)
- [SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復](#)
- [OMIMSSC IG の修復](#)

OMIMSSC で使用するアカウントの詳細を変更するには、以下のトピックを参照してください。

- IG アカウントのみを変更する場合は、「[SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復](#)」を参照してください。
- IG アカウントと、SCCM または SCVMM 管理者アカウントを変更する場合は、次の手順を実行します。
 - a IG アカウントを変更します。詳細については、「[OMIMSSC IG の修復](#)」を参照してください。
 - b OMIMSSC 管理ポータルから、SCCM または SCVMM 管理者アカウントと IG アカウントを変更します。詳細については、「[IG アカウントと SCCM または SCVMM アカウントの変更](#)」を参照してください。

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復

OMIMSSC ファイルが破損した場合に、ファイルを修復するには次の手順を実行します。

- 1 SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張インストーラを実行します。
Welcome (ようこそ) 画面が表示されます。
- 2 **Next** (次へ) をクリックします。
- 3 **Program Maintenance** (プログラムメンテナンス) で、**Repair** (修復) を選択して **Next** (次へ) をクリックします。
Ready to Repair the Program (プログラム修正の準備完了) 画面が表示されます。
- 4 **Install** (インストール) をクリックします。
進行状況画面にインストールの進行状況が表示されます。インストールの完了後、**InstallShield Wizard Completed** (InstallShield ウィザード完了) ウィンドウが表示されます。
- 5 **終了** をクリックします。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の修復

OMIMSSC ファイルが破損した場合に、ファイルを修復するには次の手順を実行します。

- 1 **SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張** インストーラを実行します。
- 2 **Program Maintenance** (プログラムメンテナンス) で、**Repair** (修復) を選択して **Next** (次へ) をクリックします。
- 3 **Ready to Repair or Remove the program** (プログラムの修復または削除の準備完了) で、**Repair** (修復) をクリックします。
- 4 修復タスクが完了したら、**Finish** (終了) をクリックします。

OMIMSSC IG の修復

このタスクについて

このオプションを使用して、削除された、または破損したファイルの再インストール、または OMIMSSC IG に必要なフォルダの再作成を実行できます。

手順

- 1 OMIMSSC IG インストーラを実行します。
- 2 **Program Maintenance** (プログラムメンテナンス) で、**Repair** (修復) を選択して **Next** (次へ) をクリックします。
- 3 **Ready to Repair** (修復の準備完了) で、IG ユーザーアカウントのパスワードを入力し、**Install** (インストール) をクリックします。
- 4 修復タスクが完了したら、**Finish** (終了) をクリックします。

IG アカウントと SCCM または SCVMM アカウントの変更

このオプションを使用すると、OMIMSSC コンソールで SCCM、SCVMM、および IG アカウントのパスワードを変更できます。

このタスクについて

SCCM と SCVMM 管理者の資格情報、および IG の資格情報は、管理ポータルから変更することができます。これは、連続するアクティビティです。

- IG アカウントの場合は、OMIMSSC でアカウントを変更する前に、次の前提条件を実行します。

- a Active Directory 内の資格情報を変更します。
 - b IG インストーラの資格情報を変更します。
- SCCM または SCVMM アカウントの場合は、OMIMSSC でアカウントを変更する前に、Active Directory で資格情報を変更します。

インストーラから OMIMSSC IG アカウントを変更するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 IG インストーラを実行します。
- 2 **Program Maintenance (プログラムメンテナンス)** で **Modify (変更)** を選択してから、**Next (次へ)** をクリックします。
- 3 パスワードを変更して、**Next (次へ)** をクリックします。
- 4 **Modify the program (プログラムの変更)** ダイアログボックスで **Install (インストール)** をクリックします。
- 5 変更タスクが終了したら、**Finish (終了)** をクリックします。

OMIMSSC 管理ポータルでの資格情報の変更

- 1 OMIMSSC 管理ポータルで **Settings (設定)** をクリックして、**Console Enrollment (コンソールの登録)** をクリックします。登録されているコンソールが表示されます。
- 2 編集するコンソールを選択して、**Edit (編集)** をクリックします。
- 3 新しい詳細情報を入力し、**Finish (終了)** をクリックして変更内容を保存します。

OMIMSSC のアンインストール

このタスクについて

OMIMSSC をアンインストールするには、次の手順を実行します。

手順

- 1 OMIMSSC コンソールの登録を解除します。詳細については、「[OMIMSSC コンソールの登録解除](#)」を参照してください。
- 2 IG を削除します。詳細については、「[Removing IG \(IG の削除\)](#)」を参照してください。
- 3 **プログラムのアンインストール** から、SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張または SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張を削除します。詳細については、「[SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアンインストール](#)」または「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアンインストール](#)」を参照してください。
- 4 アプライアンス VM を削除します。詳細については、「[アプライアンス VM の削除](#)」を参照してください。
- 5 アプライアンス固有のアカウントを削除します。詳細については、「[その他のアンインストールタスク](#)」を参照してください。

OMIMSSC コンソールの登録解除

1つのアプライアンスで SCCM または SCVMM のコンソールを複数登録している場合は、1つのコンソールの登録を解除しても、OMIMSSC での作業を続けることができます。完全にアンインストールするには、『*OpenManage Integration for Microsoft System Center Installation Guide (Microsoft System Center 向け OpenManage Integration インストールガイド)*』を参照してください。

このタスクについて

OMIMSSC コンソールの登録を解除するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 OMIMSSC で、**Console Enrollment (コンソールの登録)** をクリックします。アプライアンスに登録されているすべてのコンソールが表示されます。
- 2 コンソールを選択し、**De-enroll (登録解除)** をクリックして、アプライアンスでコンソールと IG の登録を削除します。

① メモ:

- コンソールの登録を解除すると、コンソールに関連付けられているホストサーバーが OMIMSSC の未割り当てサーバーリストに移動します。

- 3 (オプション) コンソールが到達不能である場合は、コンソールの強制登録解除の確認を求められたときに **Yes (はい)** をクリックします。
 - IG が到達不能であるときに OMIMSSC の登録を強制的に解除する場合は、以下を手動で削除します。
 - SCVMM の **アプリケーションプロファイル**
 - 登録解除中に OMIMSSC セッションがすでに開かれている場合は、SCCM または SCVMM セッションを閉じて、登録解除を完了します。

OMIMSSC IG のアンインストール

IG をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 **OMIMSSC Integration Gateway (OMIMSSC 統合ゲートウェイ)** インストーラを実行します。
- 2 **OMIMSSC Integration Gateway Installer Welcome (統合ゲートウェイインストーラのようこそ)** ページで、**Next (次へ)** をクリックします。
- 3 **Uninstall (アンインストール)** をクリックします。

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアンインストール

OMIMSSC_SCCM_Console_Extension.exe をダブルクリックして **Remove (削除)** を選択し、画面の指示に従います。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアンインストール

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 **コントロールパネル** で **プログラム** をクリックし、**プログラムのアンインストール** をクリックします。
- 2 **Console Add-in for SCVMM (SCVMM 用コンソールアドイン)** を選択し、次に **アンインストール** をクリックします。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の削除

- 1 SCVMM コンソールで **Settings (設定)** をクリックします。
- 2 **OMIMSSC** を右クリックして、**Remove (削除)** を選択します。

その他のアンインストール手順

OMIMSSC コンソール拡張を SCVMM から削除するには、次のアカウントとプロファイルを削除します。

- アプライアンス固有の RunAsAccounts
- OMIMSSC アプリケーションプロファイル

アプライアンス固有の RunAsAccounts の削除

このタスクについて

アプライアンス固有の RunAsAccounts を SCVMM コンソールから削除するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 SCVMM コンソールで **Settings (設定)** をクリックします。
- 2 **RunAsAccounts** をクリックします。
- 3 アカウントのリストから、アプライアンス固有のアカウントを削除します。
アプライアンス固有のアカウントには、先頭に **Dell_** が付いています。

OMIMSSC アプリケーションプロファイルの削除

- 1 SCVMM コンソールで、**Library (ライブラリ)**、**Profiles (プロファイル)** の順にクリックし、**Applications profiles (アプリケーションプロファイル)** をクリックします。
SCVMM で使用されているすべてのアプリケーションプロファイルが表示されます。
- 2 **OMIMSSC Registration Profile** を選択して、削除します。

アプライアンス VM の削除

このタスクについて

アプライアンス VM を削除するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 **Windows Server** の **Hyper-V マネージャー** でアプライアンス VM を右クリックし、**オフにする** をクリックします。
- 2 アプライアンス VM を右クリックし、**削除** をクリックします。

Configuration Manager 用 DLCI および SCVMM 用 DLCI の旧バージョンからの移行またはアップグレード

以前のバージョンの DLCI 製品を OMIMSSC に移行またはアップグレードするには、次を参照してください。

- SCCM 用 DLCI バージョン 3.3 からの移行については、『*Migration Guide for OMIMSSC v7.0 from DLCI for SCCM 3.3 (SCCM 用 DLCI 3.3 から OMIMSSC v7.0 への移行ガイド)*』を参照してください。
- SCVMM 用 DLCI バージョン 1.3 からの移行については、『*Migration Guide for OMIMSSC v7.0 from DLCI for SCVMM 1.3 (SCVMM 用 DLCI 1.3 から OMIMSSC v7.0 への移行ガイド)*』を参照してください。

OMIMSSC のアップグレード

OMIMSSC のインストールおよびセットアップ後、OMIMSSC の Service Pack アップデートが使用可能である場合、OMIMSSC の Service Pack アップデート機能を使用して Service Pack アップデートをインストールすることができます。

Service Pack のアップデートについて

OMIMSSC がリリースされた後、既存のアプライアンスへのアップグレードまたは拡張機能として使用可能な、重要な欠陥の修正または機能の追加を共有する必要があります。アプライアンスのオペレーティングシステムおよび OMIMSSC を更新して、Service Pack やその他のアップデートを適用することができます。

- Service Pack ファイルは、任意の HTTP サーバーに配置して、Service Pack のファイルを使用してアップデートを行なうことができます。
- これらの Service Pack を段階的に適用することができます。ただし、一度適用した後に元に戻すことはできません。
- この Service Pack は累積的です。つまり、最新の Service Pack では以前のすべてのリリースからの修正が含まれています。

OMIMSSC に関しては、次の 2 種類の Service Pack があります。

- アプライアンス Service Pack。
- インフラ Service Pack。

Service Pack のアップデートを適用するには、次の手順を実行します。

- 1 Service Pack をウェブからダウンロードします。詳細については、「[アプライアンス Service Pack とインフラ Service Pack のダウンロード](#)」を参照してください。
- 2 Service Pack をアップデートするための前提条件のリストをチェックします。詳細については、「[Service Pack アップデートの前提条件](#)」を参照してください。
- 3 ダウンロードした Service Pack アップデートをリポジトリにコピーします。詳細については、「[Service Pack アップデートのリポジトリへのコピー](#)」を参照してください。
- 4 管理ポータルのリポジトリ URL 情報を入力します。詳細については、「[Proving repository URL information \(リポジトリ URL 情報の入力\)](#)」を参照してください。
- 5 Service Pack アップデートをインストールします。詳細については、「[Service Pack アップデートのインストール](#)」を参照してください。

アプライアンス Service Pack およびインフラ Service Pack のダウンロード

前提条件

デジタル資格情報サイトから Service Pack をダウンロードするには、有効なサブスクリプションが必要です。

インフラ Service Pack は、無料で利用可能です。

このタスクについて

Service Pack をダウンロードするには、次の手順を実行します。

手順

- 1 URL (Dell.com/support/licensing/us/en/19/Lkm/Index) からデジタル資格情報ポータルにログインします。
- 2 **使用可能なソフトウェアのダウンロード**を選択し、**Microsoft System Center Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration** を選択して、**表示** をクリックします。
- 3 Service Pack をダウンロードします。

Service Pack アップデートの前提条件

アップグレードを開始する前に、次の前提条件を完了します。

- 1 実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、ジョブが完了するまで待ちます。
- 2 OMIMSSC アプライアンスをバックアップします。詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

Service Pack アップデートのリポジトリへのコピー

ダウンロードした Service Pack を配置するには、リポジトリが必要です。

前提条件

サーバーパックのすべてのファイル形式が HTTP サーバーによってサポートされていることを確認します。サポートされていない場合は、HTTP 管理者に確認してサポートを追加します。次のファイル形式がサポートされています。

- .RPM
- .XML
- .TXT
- .BZ2

.BZ2 ファイル形式のサポートを有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 repo ファイルが保存されているサーバーで、IIS マネージャを開きます。
- 2 ホスト名を展開します。**Sites (サイト)** をクリックして **Default Web Site (デフォルトのウェブサイト)** をクリックします。
- 3 **アクション** ペインで、**追加** をクリックします。
[**MIME タイプを追加**] ウィンドウが表示されます。

- 4 **File name extension (ファイル名の拡張子)** を **.BZ2** に、**MIME type (MIME タイプ)** を **APP/BZ2** にして、**OK** をクリックします。

このタスクについて

リポジトリを準備するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 サービスパックファイルを直接 HTTP サーバーに配置します。
- 2 ダウンロードした Service Pack をダブルクリックして、任意の場所にファイルを解凍します。
- 3 HTTP サイトに解凍されたファイルをコピーします。

Service Pack アップデートへのリポジトリ URL 情報の提供

このタスクについて

URL 情報を入力するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 **OMIMSSC** で、**Settings (設定) > Service Pack Updates (Service Pack アップデート)** を選択します。
- 2 **Repository URL (リポジトリ URL)** に、**http://<サーバー名>:<ポート名>/<リポジトリのパス>** の形式で URL 情報を入力し、必要に応じてプロキシサーバーの詳細を入力してから、**Save (保存)** をクリックします。

Service Pack アップデートのインストール

前提条件

リポジトリの URL 情報が使用可能であり、**Service Pack アップデート** ページに含まれていることを確認します。詳細に関しては、「[リポジトリ URL 情報の入力](#)」を参照してください。

このタスクについて

Service Pack アップデートをインストールするには、次の手順を実行します。

手順

- 1 Service Pack が HTTP サイト内に置かれたら、**OMIMSSC Admin Portal (OMIMSSC 管理ポータル) > Settings (設定) > Service Pack Updates (Service Pack アップデート)** で、**Check for Updates (アップデートのチェック)** をクリックします。
OMIMSSC については、既存のバージョンとリポジトリ内で使用可能な Service Pack バージョンが表示されます。

必要に応じて、リリースノートを表示することができます。
- 2 **適用、OK** の順にクリックします。
- 3 アップグレードアクティビティが完了したら、OMIMSSC 管理ポータルにログインし、次にブラウザのキャッシュ履歴をクリアします。

次の手順

インストール後の手順：

Service Pack のアップデートを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 管理ポータルの **About (バージョン情報)** で、Service Pack アップデートバージョンの詳細を表示します。
- 2 詳細については、管理ポータルで、**Settings (設定) > Logs (ログ)** を選択します。
- 3 **upgradelogs** ディレクトリで Service Pack のアップグレードのログファイルを表示またはダウンロードするには、**<Service Pack バージョン番号>** ディレクトリ (たとえば、1.2.0.207 ディレクトリ) を選択して表示するか、Service Pack アップグレードのログファイルをダウンロードします。
- 4 Service Pack のアップデートに失敗した場合は、**dell.com/support** にお問い合わせください。

Service Pack のアップデートが完了するには、次操作を行います。

- 統合ゲートウェイをアップグレードします。

- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をアップグレードします。

詳細については、『Microsoft System Center 向け OpenManage Integration Installation Guide (Microsoft System Center 向け OpenManage Integration インストールガイド)』を参照してください。

IG のアップグレード

IG をアップグレードするには、次の手順を実行します。

前提条件

作成された共有フォルダに最低 10 GB のディスク空き容量があることを確認します。

- ① **メモ:** ディスクに 10 GB の空き容量がない場合、インストールは警告メッセージを表示した状態で続行します。ただし、オペレーティングシステムの導入およびファームウェアのアップデートが失敗する場合があります。

手順

- 1 OMIMSSC 管理ポータルから、**OMIMSSC Integration Gateway (OMIMSSC 統合ゲートウェイ)** インストーラをダウンロードします。
- 2 **OMIMSSC_Integration_Gateway.exe** インストーラを実行します。
- 3 アップグレードを求めるメッセージで、**Yes (はい)** をクリックします。
- 4 **OMIMSSC Integration Gateway Welcome (OMIMSSC 統合ゲートウェイのようこそ)** ページで、**Next (次へ)** をクリックします。
- 5 **License Agreement (ライセンス契約)** で、**I accept the terms in the license agreement (ライセンス契約の条件に同意します)** を選択して **Next (次へ)** をクリックします。
- 6 **License: Open-Source Software (ライセンス: オープンソースソフトウェア)** で、オープンソース関連の情報を参照し、**Next (次へ)** をクリックします。
- 7 **Integration Gateway Configuration (統合ゲートウェイの設定)** で、IG サービスアカウントユーザーとポート番号の詳細を入力します。ステージングサーバーの場所を変更するには、**共有フォルダの選択** をクリックし、新しい場所をスキャンして、**次へ** をクリックします。
アプライアンスと IG 間の通信のためのポートを割り当てます。有効になっているデフォルトのポートは 8455 です。ただし、要件に基づいて異なるポート番号を設定できます。IG サービスユーザーアカウントの **Execution policy (実行ポリシー)** は **Unrestricted (制限なし)** に設定されています。
- 8 **Destination Folder (宛先フォルダ)** にはデフォルトのインストールフォルダが選択されています。場所を変更するには、**Change (変更)** をクリックして新しい場所をスキャンします。場所を変更するには、Change (変更) をクリックして新しい場所をスキャンし、**Next (次へ)** をクリックします。
- 9 **Ready to Install the Program (プログラムインストールの準備完了)** で、**Install (インストール)** をクリックします。
- 10 インストールが完了したら、**Finish (終了)** をクリックします。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアップグレード

- 1 管理ポータルで、**Download Installer (インストーラのダウンロード)** をクリックして、任意の場所にインストーラを保存します。
- 2 OMIMSSC インストーラを実行します。
- 3 アップグレードを求めるメッセージで、**Yes (はい)** をクリックします。
- 4 OMIMSSC ようこそページで **Next (次へ)** をクリックします。
- 5 **License Agreement (ライセンス契約)** ページで、**I accept the terms in the license agreement (ライセンス契約の条件に同意します)** を選択してから、**Next (次へ)** をクリックします。
- 6 **Destination Folder (宛先フォルダ)** ページでは、インストールフォルダがデフォルトで選択されています。場所を変更するには、**Change (変更)** をクリックして新しい場所をスキャンし、**Next (次へ)** をクリックします。
- 7 **Ready to Install the Program (プログラムインストールの準備完了)** ウィンドウで、**Install (インストール)** をクリックします。
- 8 **InstallShield Wizard Completed (InstallShield ウィザードの完了)** ページが表示されたら、**Finish (終了)** をクリックしてインストールを完了します。
- 9 SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張を削除して、コンソール拡張を再度インポートします。コンソールの削除については、「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張の削除](#)」を参照してください。

トラブルシューティング

トピック：

- SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアカウントの削除
- アプライアンスと ADK の互換性の問題
- アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失
- SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張へのアクセスエラー
- Mozilla Firefox ブラウザを介して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ
- OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗
- アプライアンスに設定されていない IP アドレス
- SCVMM にアクセスするに必要な権限がない
- Active Directory へのサーバー追加中の SCVMM エラー 21119
- 登録の失敗

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のアカウントの削除

SCVMM は、**OMIMSSC Registration Profile** という名前でアプライアンスのアカウントを作成します。このプロファイルが削除されると、そのアプライアンスでの作業ができなくなります。

このアカウントは削除しないことをお勧めします。削除した場合は、SCVMM コンソールを OMIMSSC に再登録してください。

アプライアンスと ADK の互換性の問題

互換性のないバージョンの ADK を含むソフトウェアをインストールした後で、OMIMSSC の既存の機能でエラーが発生することがあります。

この問題を回避するには、*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration Installation Guide* (*Microsoft System Center 向け OpenManage Integrations インストールガイド*) に記載されている前提条件に従って ADK のバージョンをアップグレードします。

アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失

OMIMSSC 統合ゲートウェイがインストールされているサーバーを再起動すると、アプライアンスと統合ゲートウェイ間における接続が失われます。これは、ユーザーに対して統合ゲートウェイの実行ポリシーがアクティブになっていないことが原因です。統合ゲートウェイのユーザーアカウントを使用して統合ゲートウェイサーバーにログインし、実行ポリシーをアクティブにします。ただし、ログイン後も、次の手順を完了するまでは接続が復元しません。

このタスクについて

PowerShell 実行ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- 1 ローカルシステムの PowerShell 実行ポリシーを RemoteSigned に設定し、**統合ゲートウェイサービスアカウント**を Unrestricted に設定します。

ポリシー設定の詳細に関しては、次の MSDN の記事を参照してください。

- **PowerShell 実行ポリシー** : technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx

- PowerShell グループポリシー : technet.microsoft.com/library/jj149004

2 実行ポリシーが設定されたら、統合ゲートウェイを再起動します。

SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張へのアクセスエラー

OMIMSSC をインストールし、SC2012 R2 VMM 用のアップデートロールアップを適用すると、セキュリティ上の理由から、SCVMM にはエラーメッセージが表示されます。その結果 OMIMSSC にアクセスすることはできません。

回避策として、次の手順を実行します。

- 1 デフォルトパスにあるフォルダ C:\Program Files\Microsoft System Center 2012 R2\Virtual Machine Manager\Bin\AddInPipeline\AddIns\- 2 SCVMM を閉じて開きなおします。
- 3 「[SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張のインポート](#)」の記載内容に従って、コンソール拡張をアンインストールしてから、インポートします。

Mozilla Firefox ブラウザを介して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ

Mozilla Firefox ブラウザを使用して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスすると、「安全な接続ができませんでした」という警告メッセージが表示されます。これを回避するには、ブラウザの admin portal の前回のエントリから作成された証明書を削除します。

OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗

SCVMM 環境に SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張をインストールした後で、OMIMSSC コンソール拡張のアイコンをクリックすると、Connection to server failed というエラーが表示されます。

回避策として、次の手順を実行します。

- アプライアンスの IP と FQDN を信頼済みサイトとして追加します。
- アプライアンスの IP と FQDN を DNS の **Forward Lookup Zones (前方参照ゾーン)** および **Reverse Lookup Zones (逆引き参照ゾーン)** に追加します。
- C:\ProgramData\VMMLogs\AdminConsole ファイルにエラーメッセージがないか確認します。

アプライアンスに設定されていない IP アドレス

アプライアンスを作成して起動した後で、IP アドレスが設定されていなかったり、コンソールが黒い画面で表示されたりする場合があります。この問題を回避するには、仮想スイッチが物理スイッチにマップされており、正しく設定されていることを確認して、アプライアンスに接続します。

SCVMM にアクセスする必要な権限がない

SCVMM コンソールを開くために使用されている SCVMM アカウントが前提条件を満たしていない場合、次のエラーが表示されます：“You should be an Administrator/Delegated Administrator to launch the Add-In”。

SCVMM アカウントおよび IG アカウントに必要な権限については、「[アカウント権限](#)」を参照してください。

Active Directory へのサーバー追加中の SCVMM エラー 21119

Active Directory にサーバーを追加している間に、SCVMM エラー 21119 が表示されます。Error 21119: The physical computer with <SMBIOS GUID> did not join Active Directory in time. The computer was expected to join Active Directory using the computer name <host.domain>.

このタスクについて

回避策として、次の手順を実行します。

手順

- 1 しばらく待ってから、サーバーが Active Directory に追加されたかを確認します。
- 2 Active Directory にサーバーが追加されていない場合は、Active Directory にサーバーを手動で追加します。
- 3 SCVMM にサーバーを追加します。
- 4 SCVMM にサーバーが追加されたら、SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張でサーバーを再検出します。
サーバーは **Host (ホスト)** タブの下に表示されます。

登録の失敗

テスト接続または登録が失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

- 読み取り専用ユーザーとしてアプライアンスにログインすることで、SCCM または SCVMM サーバーおよび IG がインストールされているサーバーに対して、アプライアンスから ping を実行します。応答があった場合は、しばらく待ってから、登録を続行します。読み取り専用ユーザーの詳細については、「[OMIMSSC 上での IG のインストールの検証](#)」を参照してください。
- インターネット情報サービス (IIS) マネージャサービスが IG がインストールされているサーバーで実行されていることを確認します。
- **Enrollment (登録)** ページで入力した FQDN、資格情報、ポート番号などの IG の詳細が有効で、IG のインストール中に指定したものと同一であることを確認します。
- IG サービスアカウントユーザーは、SCVMM のユーザー役割の SCVMM Server Administrator および IG がインストールされたシステムのローカル管理者の一部であることを確認します。
- SCCM または SCVMM サーバーが実行中であることを確認します。
- SCCM に固有の手順：
 - SCCM ユーザーが SCCM Server Administrator の一部であることを確認します。
- SCVMM に固有の手順：
 - Scvmm ユーザーは、SCVMM のユーザー役割の SCVMM Server Administrator または委任管理であることを確認します。
 - SCVMM サーバーが他のアプライアンスに登録されていないことを確認します。アプライアンスに同じ SCVMM サーバーを登録する場合は、SCVMM サーバーの **OMIMSSC Registration Profile** アプリケーションプロファイルを削除します。アプライアンスのアンインストールの詳細については、『*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration Installation Guide (Microsoft System Center 向け OpenManage Integrations インストールガイド)*』を参照してください。
 - SCVMM のロールアップを更新し、レジストリ (HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft System Center Virtual Machine Manager AdministratorConsole\Settings) で SCVMM Console の Indigo TCP ポートにチェックを入れていた場合は、SCVMM コンソールのインストール中に使用されたものと同じ (デフォルトでは 8100) にする必要があります。

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- Dell EMC Enterprise システム管理マニュアル — [Dell.com/SoftwareSecurityManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC OpenManage マニュアル — [Dell.com/OpenManageManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理マニュアル — [Dell.com/esmanuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- iDRAC および Dell EMC Lifecycle Controller マニュアル — [Dell.com/idracmanuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理マニュアル — [Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell EMC 保守ツールマニュアル — [Dell.com/ServiceabilityTools](https://www.dell.com/support/manuals)
- Client Command Suite システム管理マニュアル — [Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- a [Dell.com/Support/Home](https://www.dell.com/support/home) に移動します。
- b **Choose from all products (すべての製品から選択)** をクリックします。
- c **All products (すべての製品)** セクションで **Software & Security (ソフトウェアおよびセキュリティ)** をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - **Enterprise Systems Management (エンタープライズシステム管理)**
 - **Remote Enterprise Systems Management (リモートエンタープライズシステム管理)**
 - **Serviceability Tools (保守ツール)**
 - **Dell Client Command Suite (デルクライアントコマンドスイート)**
 - **Connections Client Systems Management (接続クライアントシステム管理)**
- d ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

デルへのお問い合わせ

前提条件

- ① **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

このタスクについて

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国 / 地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

手順

- 1 [Dell.com/support](https://www.dell.com/support) にアクセスします。
- 2 サポートカテゴリを選択します。
- 3 ページの下部にある **国 / 地域の選択** ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。

- 4 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。